

(県協働部署用) 協働事業評価・報告書

事業名	性的虐待、性暴力の被害を受けた高齢児童への長期的ワンストップ支援
団体名	NPO 法人子ども支援センターつなぐ
県協働部署名	福祉子どもみらい局 子どもみらい部 子ども家庭課
事業期間	令和 4 年 4 月 1 日 ~ 令和 5 年 3 月 31 日

1 個別事業ごとの実施結果

事業 1	ワンストップサポート事業
(1)実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	本事業の対象者が児童年齢の場合には、児童相談所の本来業務として支援する仕組みが構築されているため、協働部署として連携した事例はなかったが、18 歳を迎え児童相談所の支援から離れた場合などにおける団体への相談は増えており、相談内容も多岐に渡っている。このことは、団体のこれまでの実績が大きく影響していると考えられ、存在意義が広く浸透してきていると考える
(2)目標の達成状況	ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。 (100%) ※1 年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。 イ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。 概ね計画通り実施されており、啓発の機会も増えているため、今後の活動へ繋がられている。 ウ) この事業の課題と対応策 事業開始当初に比べ、相談内容が多岐に渡り、支援期間が伸びていることを考えると、今後もそのニーズに応えられるような組織づくりが必要と考える。

事業 2	子どもへの寄り添い、同行支援事業
(1)実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	今年度、地域の児童相談所との連携した事例はなかったが、当事業は、児童相談所業務では支援の手が行き届かない部分にまで細やかに支援しているので、児童相談所に係属している子どもに対しても、必要に応じて連携することにより支援の幅を広げられると考えている。
(2)目標の達成状況	ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。 (100%) ※1 年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判断してください。 イ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。 概ね計画通り実施されている。 ウ) この事業の課題と対応策 本事業を実際に行うボランティアの専門性の育成については、事業 3 で補填されるようになったが、本事業についてもニーズが増えていることを考えると、より多くのボランティアが必要となり、ボランティア確保のための工夫も必要と考える。

事業 3	サポートボランティア養成事業
(1)実績・成果に対する評価 ※実績や成果についてどのように考えているかを記入してください。	事業 2 を実施する上で欠かせない事業であるのはもちろんのこと、団体の事業の質を担保する上でも、必要な事業であると言える。研修内容も、ボランティア養成のために必要な科目以外にも、資質向上のための科目も取り

	入れており、事業継続していくうえで有効であると考え る。
(2) 目標の達成状況	ア) この事業の進捗は何%ぐらいですか。 (100%) ※1年間で目標が達成できた場合に「100%」になることを基準に判 断してください。
	イ) 上記ア) のように判断した理由を記入してください。 概ね計画通り実施されている。
	ウ) この事業の課題と対応策 本事業の実施状況を踏まえ、よりボランティアの資質向 上につながるようなカリキュラムにしていくことが望ま れる。また、ボランティア同士の交流やピアサポートな ども引き続き取り入れ、ボランティアを支える仕組みの 構築も必要と考える。

(注) 個別事業が2つ以上ある場合は、上の表を複写して記入してください。

2 協働事業を継続する上での課題とその対応策

3 事業ともに、関係機関との連携を強め事業展開が幅広くなっていると感じているが、協働事業終了後も継続して活動ができるための仕組み作りを考えていくことが、今後も重要と考えている。

3 負担金事業終了後の貴課の考え方

これまでの取り組みから団体は他機関との繋がりができており、また、コロナ禍においても取組方法を工夫し実績を積み上げている。引き続き、研修等でその取り組みの周知を図り、一団体として活動が継続できるようになることを期待している。

4 協働事業の評価 (はい・いいえ・どちらともいえない、に該当するものを残してください)

1 協働事業の成果		
(1)	協働することで、単独で事業を行うよりも効果やメリットがありましたか。	はい
(2)	事業の受益者の満足を得ることができたと思いますか。	どちらともいえない
(3)	協働事業の成果だと思ふことがあれば記入してください。 性被害や性的虐待を受けた高年齢児童を対象とした、ワンストップですべてのサポートをしてくれる機関は決して多いとは言えない。協働事業によりきめ細やかな支援ができること自体が成果である。	
2 協働事業の協議の状況		
<企画段階>		
(1)	事業計画や目標の立て方について、県と団体とは事前の調整や協議を十分行いましたか。	はい
(2)	県と団体とは対等な立場で協議を行いましたか。	はい
<実施段階>		
(3)	意思の疎通を円滑にし、事業の進捗状況を確認するため、県と団体とは節目ごとにメールや電話でのやりとりや定期的な協議を行いましたか。	はい
(4)	相手方のフィールド(団体の事務所・活動現場)に足を運び、団体の置かれている状況や立場についての理解に努めましたか。	はい
(5)	必要な情報を団体と共有することができましたか。	はい
(6)	協議についての課題があると思われる場合は、記入してください。 特になし	

3 協働事業の役割分担		
(1)	団体との役割分担は適切でしたか。	はい
(2)	協働事業の実施にあたって、あらかじめ定められた役割を果たすことができましたか。	どちらともいえない
(3)	役割分担についての課題があると思われる場合は、記入してください。 特になし	
4 協働事業全体を通しての評価		
(1)	全体として、県と団体とは対等な立場で協働ができましたか。	はい
(2)	この事業の課題を解決する上で、協働という手法は有効だと思いましたか。	はい
(3)	協働事業全体を通じて気づいた点があれば記入してください。 特になし	
5 社会的認知の獲得		
(1)	取り組んでいる事業や成果について社会的認知が広がったと思いますか。	はい
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、どういう点で社会的認知が広がったと思うか理由を記入してください。 特に事業2で実施している付添犬の活動については、新聞記事に取り上げられたこともあり、そこを皮切りに団体の取り組みへの認知度が広がっている可能性は考えられる。	
6 新たなネットワークの獲得		
(1)	この事業を実施する上で新たなネットワークをつくる（広げる）必要性がありましたか。	はい
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）努力を団体と共に行いましたか。	どちらともいえない
(3)	(2)で「はい」を選んだ場合、ネットワークをつくる（広げる）ことができましたか。	はい・いいえ・どちらともいえない
7 行政の施策等への影響		
(1)	協働事業の実施により、県職員のボランティア団体等に対する認識の変化や行政の施策等の改善のヒントにつながるようなことがありましたか。	どちらともいえない
(2)	(1)で「はい」を選んだ場合、具体的に変化や影響があったと思われることがあれば記入してください。	
8 費用対効果		
(1)	事業の効果から見て、要したコストは適切だと思いましたか。	はい
(2)	(1)で「いいえ」を選んだ場合、その理由と、今後の対応策を記入してください。	